

『人生ハンド仏句』2月号（83）【求めない。比べない。期待しない。】

新年早々「不況だ。解雇だ」と景気の悪いニュースばかりが耳に入ってきました。

私達にとって現代社会の大不況は、まさに先の見えない暗闇の中を、ライト（灯り）も持たずに手探りで進む様な恐ろしく、苦しい状況である事は間違いないと思います。それも百年に一度の大不況と謳われているくらいですから、私達は誰一人経験したことがなく、想像を絶すると言っちゃ言い過ぎでしょうか？

私が学生時代『世界大恐慌』という事件を学校で教わった事を思い出します。『世界大恐慌』というのは、今からちょうど八十年前に遡ります。時は昭和4年の10月24日に、ニューヨーク証券取引所で株価が大暴落した事を切っ掛けに生じた金融恐慌の事です。歴史教科書にも載っている、その『世界大恐慌』を上回ると言われているのが、私達が直面している現在の不況ということになります。

これに伴い、日本を代表する大企業で非正規労働者を中心に解雇が相次いでいます。テレビも新聞もこれを社会問題として、連日大きく報道する様になりました。それらによると、解雇された人達は、住む場所も追われ、生活するお金もなく、この怒りの矛先をどこに向ければいいのか？苦渋の選択を強いられているとの事です。

この現状を皆さんは、どの様にお感じになりますか？これについては賛否両論お有りでしょうが、まず自分の置かれた立場等の感情はひとまず置いておきましょう。

そして私達は、自分の身の丈に合った生活水準を保つことを第一条件に置かねばならないでしょう。国や社会、或いは会社や周囲の人間を批判する前に、自分自身を整理してやる必要があると思います。

そこで皆様のお怒りを承知で、私論を述べてみたいと思います。

私はある一面において、この様に感じています。特にメディアを中心に『今頃何を言っているのだ』と…。こう言ってしまうと、切り捨てたような、冷たい言い方にしか聞こえないのは否めませんが、しかしこういふ疑問もぬぐえないのです。

そもそも労働の規制緩和は、不景気の時に企業が容易に、そして合法的に首切り出来るようにするために、決定された政策であったという事が言えると思います。大企業が遠慮会釈なく首切りする事が、「構造改革」の実が拳がっている証拠であるとも言えなくもありません。例えると、水道管にわざと穴を開けておいて、今頃水が漏れていると大騒ぎするメディアは、善意かも知れないが愚かであります。例外無き規制緩和の旗を振った経済財政諮問会議や、規制改革会議の人間は、この現状をどう思っているのでしょうか？雇用危機も医療崩壊も、政策転換の結果であり、私はただただ人災としか言えない様な気がするのです。その人災に飲み込まれている被害者各人に対しては、同情や共感を持ちますが、本当に向けなければいけないその怒りの矛先は、意図的に人災を作り出した人間へと向かうべきであると思います。また、この7、8年を振り返り、その様な厳しい総括をすることこそメディアの本当の役割ではないかと思えます。政策を決定した人々の議論こそ必要で、またメディア自身も規制緩和をどう論じてきたのか、キチンと反省してほしいと願っています。

ます。と同時に、合理的にマニュアル化された社会を良しとしてきた、私達自身の責任でもあるでしょう。

専門家によれば、この不況が回復するのは、まだまだ2〜3年後になるとの事です。「ハア…」と溜息が聞こえてきそうな、本当に面白くないお話しなのですが、しかし事の成否で一々心を振り回されているわけにはいきません。

そこで私は皆様に、物事の捉え方について説き伏せて頂きたいと思います。

1つの物事には表と裏が表裏一体となり、成り立っています。つまり楽≠苦。楽しいことも、苦しい体験があつてこそ、はじめて感じる事が出来るのだと思います。

この真理に即して考えれば、私達の精神もやはり『善≠悪が両方存在して1つ』の感情に仕上がっていると言えます。

私達は自分の人生を生きる上で、自分を(が)立てなければいけません。つまり自立しなければ生きていけません。じゃあ自立するってどういう状態なのか?と言えば、私自身が勝手に決めた**「自立するための3原則」**なるものを、紹介させて頂きます。

自立する為の三原則、それは：『**求めない・比べない・期待しない**』という事です。

私達は、何かにつけて求めているし、何かと誰かと比べているし、そして自分の行為に対して何かを期待しています。それは腹黒い、イヤらしさではなく、人間の本性とも言うべき、当たり前前の感情であります。そこには良かれと思う愛情あり、良かれと思う夢や目標あり、良かれと思う正義感あり…どちらかと言えば、人間として肯定すべき、プラス思考的な点が含まれている感情とも言うことが出来ると思います。しかしだからこそ、これらの感情を取り払う事からスタートするのです。いわば逆説的な方法なのですが、自分の感情をコントロールする為の方法としては一理あると思います。いわば『**諦める**』あきらめることなのです。諦めるとは、**物事を『明らかにする』**と**『いつか』**なのです。明らかにするとは、**物事を『悟る』**と**『いつか』**なのです。

『求めない・比べない・期待しない』で心を整理していくと、自分の精神が楽になるはずです。私達は、何かを求める・何かと比べる・何かを期待した時、もしその何かが成就しなければ、そこに悩みや苦しみが湧き起こる事を知るべきなのです。しかし、なかなか一朝一夕にできる事ではありません。しかし、物事は表裏一体の関係にあるとすれば、これは原理原則とも言える真理であるはずです。

『1年1昔』と言われる現代において、結果を急ぎすぎると思わぬ代償をばらむことになりません。心が希薄になつた私達の心を、シッカリ熟成する期間が必要なのではないでしょうか?先月号にも記しましたが、正負の法則です。この不況という苦しい期間を、自己の精神を熟成する期間として、五年の今年、1歩1歩着実に勤勉・努力・儉約を心掛けて、日々の命を生きていくつではありませんか。

若輩者の私が、諸先輩方に対して大それた事を申し上げましたが、各人が個人主義ではなく、各人が異体同心の精神(協力心)を持つ時、そこに日本国復興の光明が射してくるものと思います。1人1人の平和を切に祈念致しております。 合掌 副住職 谷川寛敬